

CSR REPORT 2019



1. 社長メッセージ

CSRサイトレポートを発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昭和電工HD山形株式会社は、昭和電工グループのハードディスク事業の重要生産拠点として、開業以来「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を事業継続の大前提と掲げております。

ハードディスクは、パソコンやデータセンター向けハードディスクドライブ(HDD)を始めとして、カーナビゲーション、HDDレコーダー、ゲーム機、VR、監視カメラ等に広く使用されている大容量記録媒体であり、昭和電工グループのハードディスク事業は、世界の20%を超えるシェアを占めています。

近年では、IoTの伸張に伴うビッグデータの活用、クラウド・モバイルの普及によるデータセンターの大容量化が進み、ここで利用されるニアラインHDD(NL-HDD)の需要が年々拡大しています。

当社は、主力製品であるNL-HDD向け高容量ハードディスクの技術革新をさらに推し進め、ドライブあたり記録容量を増大し、データの価値がますます上昇する高度情報化社会のニーズにスピードをもってお応えします。

今後もCSR活動を基本に、「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」に対する従業員の感度や関心を高め、安全・快適で環境負荷の少ない社会の実現に向け、事業を力強く推進いたします。



代表取締役社長 石川 二郎

2. 事業所長メッセージ

昭和電工HD山形は、昭和電工グループのHD事業の生産拠点のひとつとして2009年7月に発足し、その歴史を刻み続けています。開業から現在に至るまで、「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を継続できておりますのは、ひとえにお客様、サプライヤー様、協力企業様、社員並びに関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

ハードディスクは、IoTの伸張を支えるキーデバイスの一つであるハードディスクドライブに必要不可欠なコンポーネントです。高記録密度化の加速、更なる信頼性の向上、コストダウン強化を図り、「Best-In-Class(BIC)」製品の安定供給を通して、高度情報化社会の進展に貢献していく所存です。

また、昭和電工グループHD事業において、当社の重要な役割である基板マザー工場機能と、ニアラインメディアの1st量産および他拠点展開にスピード感を持ってあたるとともに、今後とも、『事業継続のベースは安全・安定操業、環境トラブルゼロにある』ということ念頭に、安全で健康的な職場を築いてまいります。

本レポートをご覧いただき、わたくしたちの取り組みへの忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



取締役事業所長 青木 隆明

3. 会社概要

ショウワデンコウエイチディヤマガタ

◆ 昭和電工HD山形株式会社 ◆

<昭和電工株式会社の100%子会社>



- 操業開始 2009年(平成21年)7月1日
- 資本金 450百万円(2019年3月31日現在)
- 従業員 社員:359人、協力会社:281人(2018年12月31日現在)
- 所在地 本社:山形県東根市大字東根甲5400番地2
基板工場:栃木県小山市犬塚1丁目480番地
- 事業内容 磁気ディスク装置用アルミニウム基板及び記録メディアの開発、製造、販売



ハードディスクメディア



【 昭和電工株式会社 】

- 設立 1939年(昭和14年)6月1日
- 資本金 140,564百万円(2018年12月31日現在)
- 従業員 グループ連結:10,476人、単独:3,347人(出向者を除く)
(2018年12月31日現在)
- 本社所在地 東京都港区芝大門1丁目13番9号
- 売上高 グループ連結:9,921億円(2018年[平成30年]12月期)
- 事業内容 石油化学、化学品、無機、アルミニウム、エレクトロニクス、その他

• CSRLレポートの報告対象範囲

昭和電工HD山形(株) 本社・基板工場を対象としています。2018年4月~2019年3月の情報です。
環境データの一部は、2018年1月~12月のものです。

2019年 SHDY事業所方針

事業所長 青木 隆明

進化 スピードもって“動かす”SHDYへ

1. BICメディアへの回帰
2. 新技術・新規プログラムの開発加速
3. アルミ基板の深化
4. 事業所基盤の強化
5. 安全安定操業とコンプライアンスの徹底

以上

5. マネジメントシステム

品質マネジメントシステム

■ 品質マネジメントシステムの維持強化 (業務方針、方向の明確化と進捗管理)

1. 品質方針

- ・方針展開はトップダウンにより周知徹底を図っています。
デバイスソリューション事業部⇒事業所方針⇒各部方針⇒全従業員

2. 業務遂行の重要ポイント

- ・各部における重要な業務プロセスを明確にします。
更に、その業務と各部とのかかわりも明確にしています。
・実績検討会や生産会議の場で、トップへ報告をおこないます。

3. 登録証

- ・2010年1月に品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しました。また、2016年1月には小山基板工場を統合し、基板と記録メディアの開発、製造、販売へ認証を拡大しております。
認証番号：QC09J0076
登録日：2010年1月6日
認証機関：株式会社日本環境認証機構(JACO)



■ 顧客満足度の向上を目指した活動

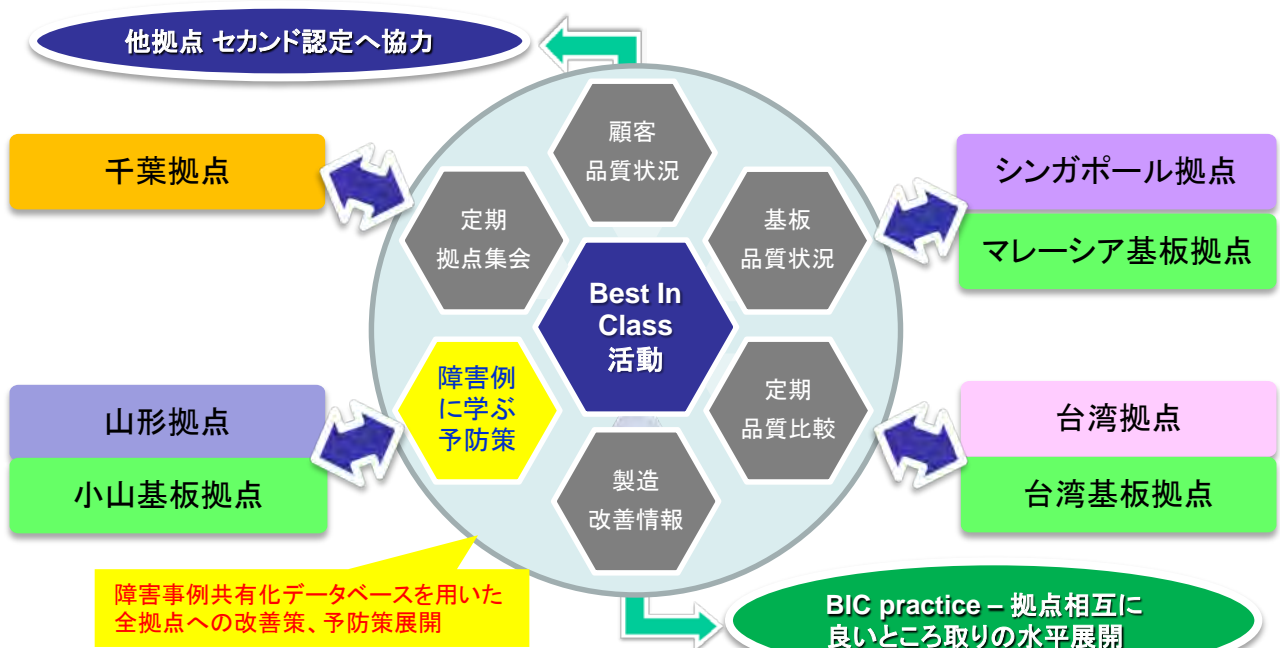
1. お客様とよりよい関係の構築

- ・各場面(開発/量産/出荷先)で顧客との定期打合せにより、品質状況の共有と要求事項への対応をしています。

打合せ名	内容	参加組織
開発コラボ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新機種設計仕様と目標達成度の確認 ・市場品質状況、市場要求事項の確認 	顧客設計部門 当社開発部門
量産コラボ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・量産状況確認と品質課題への対応 ・継続的改善活動 	顧客SQE部門(国内/海外) 当社品証部門(各製造拠点) 当社プロセス改善部門

2. お客様の満足とさらなる安心をめざす安定品質の提供

- ・全製造拠点間で、記録メディアに関しての顧客品質状況の共有はもちろんのこと、主な基板供給拠点も参加して、製造品質や改善情報を共有して、品質格差の低減と顧客品質問題に対する先取り対策を水平展開しています。
また、ニアライン機種のマザー工場として、初回認定を受けた後、他拠点のセカンド認定のサポートに参加しています。



労働安全衛生・環境方針

高度情報化社会を支えるキーデバイスである磁気ディスク装置に不可欠なコンポーネントとしての高容量・高性能・高信頼性の基板を含む記録メディアの開発・製造、販売活動を通じて、労働安全衛生及び地球環境に配慮した企業活動を実践することにより、企業としての社会的責任を果たします。

- ・労働安全衛生マネジメントシステム及び環境マネジメントシステムの継続的な改善を行うと共に、労働災害防止および環境保護に努めます。
- ・労働安全衛生と環境に関連する法令、規制と当社が同意したその他の要求事項を順守すると共に、自主的な基準を設定し順守します。
- ・安全で快適な職場環境のもと、高品質で環境と社会に貢献する製品及びサービスを提供することを目的に以下の重点テーマに基づく実施計画を設定して取り組みます。
また、実施計画を定期的に見直し、労働安全衛生と環境のパフォーマンスを継続的に改善します。
 - (1) リスクアセスメントの活用・マネジメントシステムの進化により災害ゼロを目指す。
 - (2) 疾病予防と健康管理を推進し、こころと身体の健康づくりを目指す。
 - (3) 事業活動を通じてサステイナブルな社会の実現に貢献する。
- ・事業継続のベースは「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」にあることを認識し、教育訓練や啓発活動を通じて、全従業員の労働安全衛生の意識を向上させ、一人ひとりが関連法令を順守し、地球環境に配慮した行動を実践できるよう取り組みます。
- ・地域社会、公的機関及び利害関係者との良好な関係を図るため、積極的な情報開示と対話に取り組みます。

この方針は当社で働く又は当社のために働くすべての人に周知すると共に、社外からの要求に応じて一般の人にも開示します。

2019年 1月10日
昭和電工HDD山形株式会社

事業所長 青木隆明

労働安全衛生・環境マネジメントシステム

昭和電工HD山形は2009年11月に「環境マネジメントシステム」の認証を、2012年11月に「労働安全衛生マネジメントシステム」の認証を取得しました。二つのマネジメントシステムを統合した運営を行い、効率的な活動を展開しています。

＜環境マネジメントシステム＞

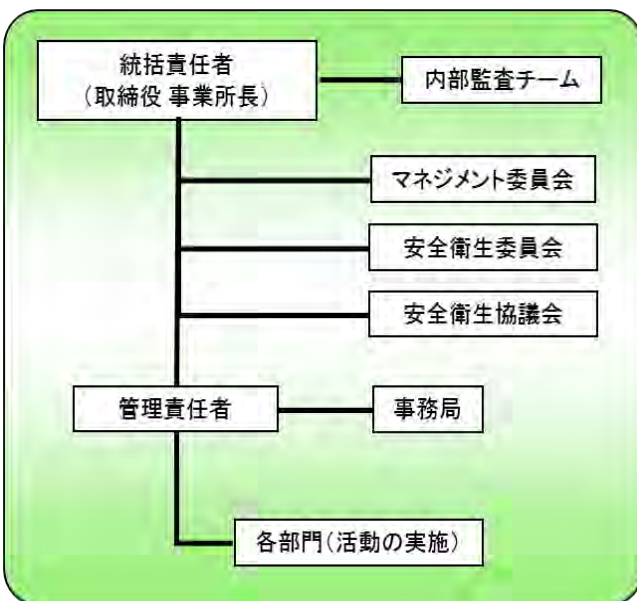
- ・認証規格: ISO14001:2015
(JIS Q 14001:2015)
- ・登録番号: 12ER・862
- ・初回登録日: 2009年11月25日
- ・認証機関: 高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)

＜労働安全衛生マネジメントシステム＞

- ・認証規格: OHSAS18001:2007
- ・登録番号: 12HSR・037
- ・初回登録日: 2012年11月26日
- ・認証機関: 高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)



労働安全衛生・環境マネジメント組織



環境活動に関しては、各部門において環境負荷低減を推進しています。

労働安全衛生活動に関しては、職場の各部門内の小グループにて危険リスクを抽出し、危険源の排除活動を行い、安全で快適な職場環境を実現しています。

これらの活動はマネジメント委員会にて審議され、活動のスパイラルアップを行う体制としています。

定期的を実施される内部監査や外部審査により、労働安全衛生・環境活動の運用状況や継続的改善の状況についてチェックしています。

6. 環境負荷の概要

当社は製品を提供するために、さまざまな原材料を調達し、燃料・電力などのエネルギーや水資源を使用しています。また、生産活動に伴って発生する環境負荷の低減活動も積極的に行っています。



〔算出対象期間：2018年4月～2019年3月〕

※ゼロエミッション達成中： 定義は埋立処分量が廃棄物発生量の1%以下であること。

7. 地球温暖化対策

エネルギー起源CO₂の排出量削減

以下の活動を実施し、エネルギー起源のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

①製造設備の効率化

記録メディア製造工程の歩留まり改善やライン稼働率の向上を図ることにより、エネルギー当たりの生産量増加に継続的に取り組んでいます。

②超純水用原水の加温システム構築

本社工場1番館の超純水用原水を、生産用冷却水の排熱で加温するシステムを構築しました。

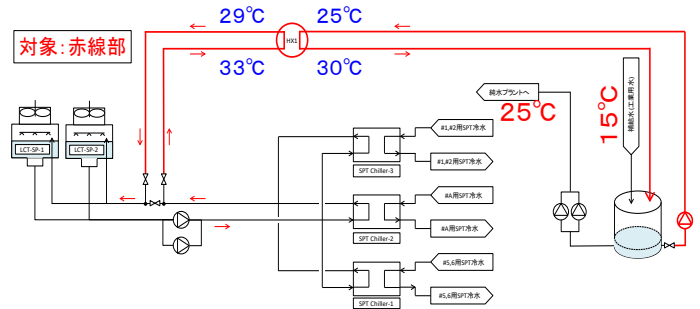
通常は15℃の原水(工業用水)を25℃まで加温することができるようになったため、蒸気による加温負荷が減少し、年間250kLのA重油が削減できます。

③フリークーリングの強化

本社工場2番館のターボ冷凍機の老朽化更新を行う際、冷却塔の能力を増強し、フリークーリングの使用期間を延長できるようにしました。この結果、能力不足分を補っていた吸収式冷凍機での燃料(A重油)使用量を10kL削減できるようになりました。

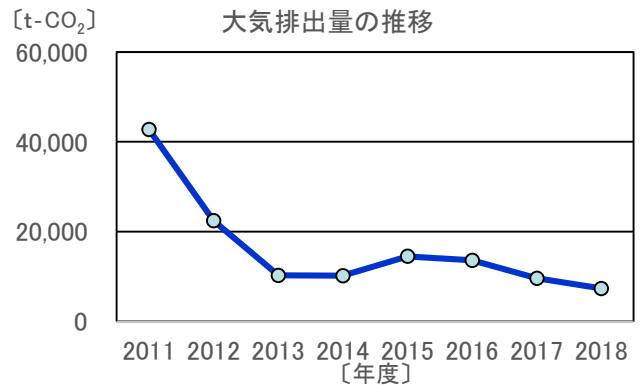
	目標	実績
使用量(原油換算)	10,023 kℓ	9,671 kℓ
CO ₂ 排出量	23,501 t-CO ₂	22,709 t-CO ₂

(注: 本社のみの値)



CO₂以外の温室効果ガス削減

記録メディア製造工程で使用する溶剤(HFC: 代替フロン)の1つで温室効果ガスの蒸散量を低減するために、開放型装置の処理槽の小型化及び密閉化等に取り組んでいます。それにより溶剤の蒸散量を抑制し、地球温暖化防止に貢献しました。



8. 廃棄物対策

廃棄物削減

記録メディア製造工程の排水を処理することで汚泥が発生します。汚泥の削減のため排水処理プロセスの随時検討を行い廃棄物発生量の抑制に取り組んでいます。

また、廃プラスチック類の分別を継続的に行うなど、廃棄物の有価物化に積極的に取り組み、廃棄物発生量の削減に努めています。

廃棄物発生量が目標未達であったのは、記録メディア製造工程以外からの一過性の排出量が増加したためです。

	目標	実績
総発生量	462 t	479 t
廃棄物発生量	336 t	324 t
有価物量	123 t	152 t
一般廃棄物(事業系)	3 t	3 t

(注: 本社のみの値)

[7.地球温暖化対策、8.廃棄物対策における活動期間は、2018年1月 ~ 2018年12月]

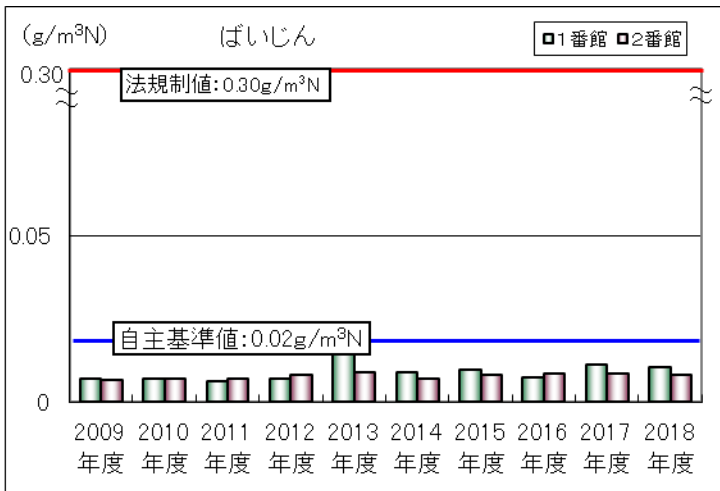
9. 環境に関わる法規制の順守状況

大気関係

当社は大気汚染防止法に関連する設備として、空調用のボイラー、吸収式冷凍機のばい煙発生施設を設置しています。

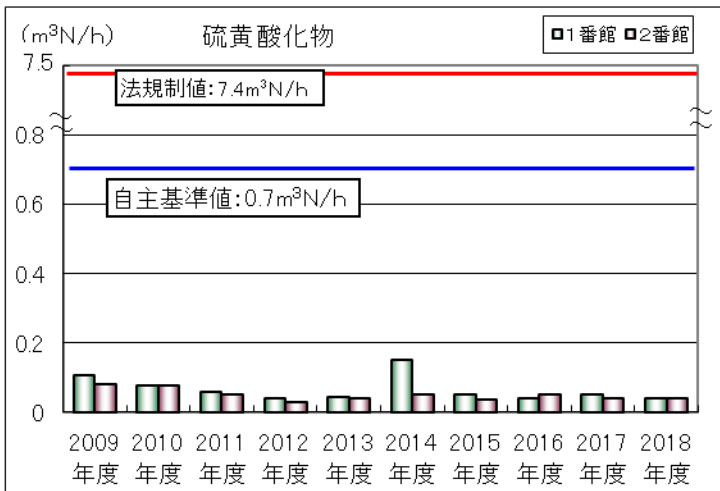
大気汚染防止法に基づく定期測定の結果、大気への環境負荷物質の排出量は法規制値を大幅に下回る低い水準で推移しています。

各機器では、最適な燃焼効率となるように適宜調整を行っています。また、冬期間は外気を活用したフリークーリングシステムを積極的に利用することで吸収式冷凍機運転停止による、ばい煙発生抑制に努めています。



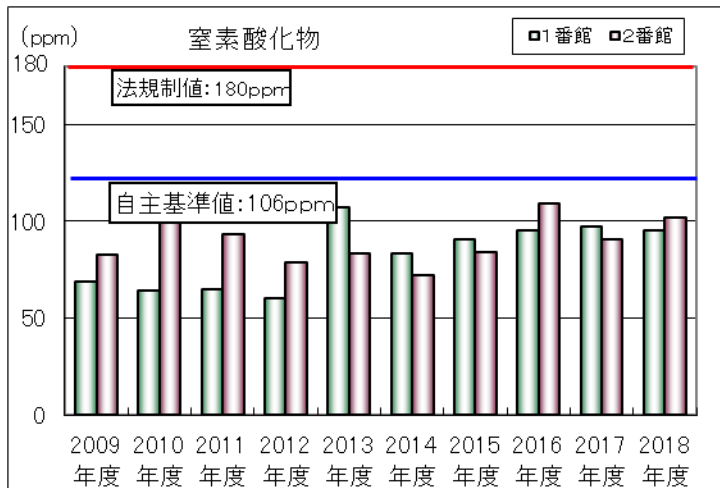
・ばいじん: ばい煙の一種で、すすや燃えかすの固体粒子状物質。

煙道のばい煙濃度計により、常時ばい煙の状態を監視しています。



・硫黄酸化物: 石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときに排出される物質。ソックス(SOx)ともいう。

硫黄酸化物の濃度を抑制するために、燃料中の硫黄成分が少ないLSA重油を使用しています。
※LSA重油: Low Sulfur A重油



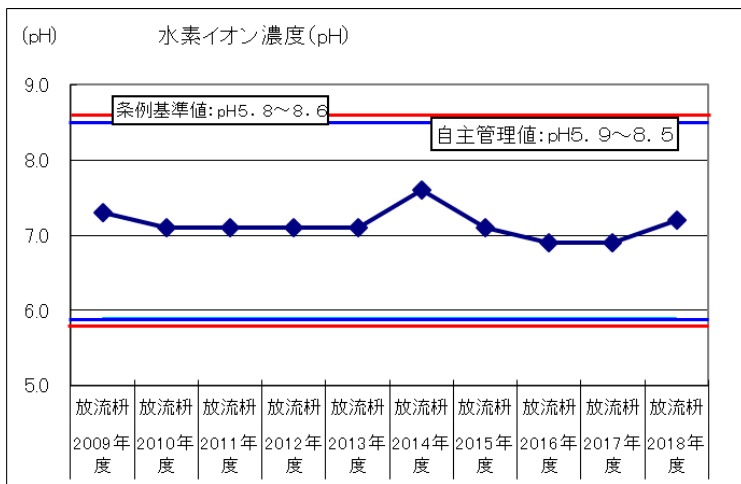
・窒素酸化物: 光化学オキシダントの原因物質で硫黄酸化物と同様に酸性雨の原因ともなっている物質。ノックス(NOx)ともいう。

燃焼温度を管理し窒素酸化物の濃度を適正に管理しています。

水質関係

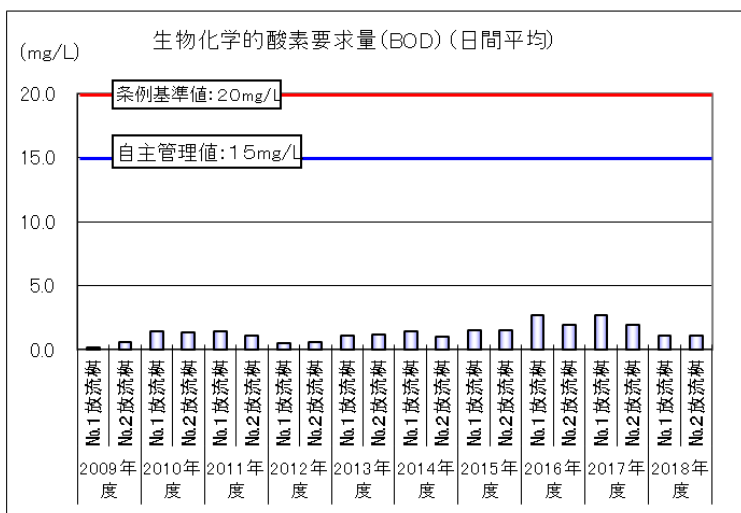
水質汚濁防止法の法規制値より厳しい山形県の条例基準値を順守すべく、更に厳しい自主基準値を設定し、排出水の水質を管理しています。また、水質汚濁防止法に基づく定期測定の結果、水質関係の各測定値は法令基準値を下回る低い水準で推移しています。

当社の工程からの排水は、全て社内の処理施設にて処理を行っています。処理した排水を工場敷地外に排出する際は、最終放流槽のpHセンサーにて常時監視を行い、水質基準に合わない水を流出させないようにしています。



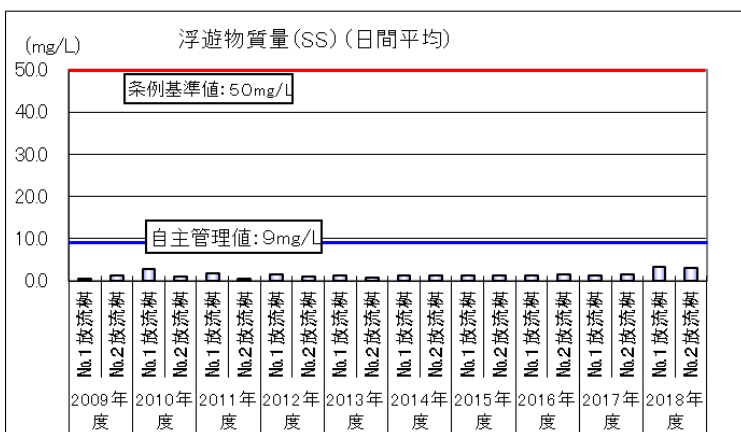
・pH: 水溶液の酸性・アルカリ性の程度をあらわす単位。(中性はpH7.0)

各排水処理施設の最終段階で更にpH調整を行い放流しています。



・BOD: 水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと。河川の有機汚濁を測る代表的な指標。

流動接触槽による生物活性処理を行い、BODの低減をはかっています。また、製造のプロセス設計の段階から工程排水のBODを低減するようにしています。



・SS: 水中に浮遊している直径2mm以下の粒子状物質。懸濁物質とも言う。

排水処理工程にて、凝集沈殿、砂ろ過等により浮遊物質の除去を行っています。

10. 労働安全衛生

労働安全衛生活動

1. 活動方針

- ・労働安全衛生マネジメントシステムの継続的な改善による労働災害防止に努めます。
- ・労働安全衛生に関する法令、規制を順守すると共に、社内規程を順守します。
- ・従業員の健康保持・増進を図ります。

2. 年間重点実施事項

(1) 安全関係

- ・リスクアセスメントを活用した安全衛生活動
- ・職場巡視の定期実施及び指摘事項の改善

(2) 衛生関係

- ・健康診断結果に基づく事後措置、保健指導の実施
- ・「昭和電工いきいき健康プラン」に基づく、健康保持・増進活動の推進

3. 労働災害の状況

- ・2018年度は、休業・不休業災害とも「ゼロ」でした。
- ・無災害労働時間(2019年3月現在 社員と協力企業の合計)

868万時間

『(一社)日本化学工業協会 安全優秀賞』を受賞

安全活動は、職制毎の小集団をベースにKYT、ヒヤリハット、リスクアセスメントを基本ツールとして展開しています。風通しの良い職場環境づくりを念頭に、社員と事業場内常駐の協力企業との協働で活発な取り組みを展開した結果として、『第42回日本化学工業協会 安全優秀賞』を受賞しました。

今後とも、事業継続のベースは『安全・安定操業、環境トラブルゼロにある』ということを認識し、安全で健康な職場を築いてまいります。



『安全巡思』活動

巡視ではなく、巡思という漢字をあてています。これは安全かどうか見て回るだけでなく、安全について思いを巡らしましょう、という思いを込めています。「例えば、見えないものを見るために、どうすれば災害が起きるか、不安全行動を取りやすい作業はないか、という視点で考えるようにしています」。また、安全巡思の際に発生頻度の高いトラブル対応作業を再現して、KYや意見交換を行うことで危険を顕在化し、リスト化して不安全要素撲滅の取り組みを進めています。

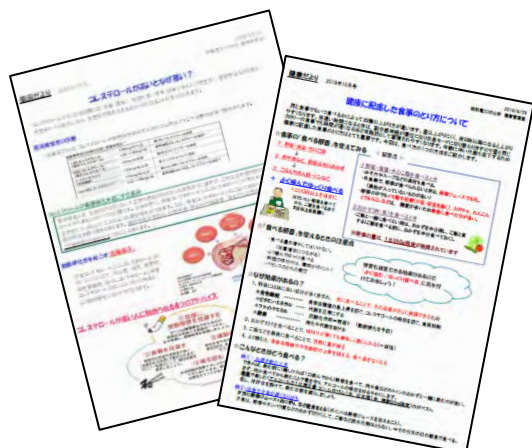


11. 心と身体の健康づくり

『健康だより』の定期発行

生活習慣病が深刻化するのには、働き盛りである40歳以降ですが、その多くは自覚症状がないまま進行します。健康でイキイキと元気に働くためには、日頃のセルフケアが重要になります。健康管理室では毎月1回「健康だより」を発行し、心と身体の健康管理や生活習慣病の予防、季節の感染症予防などの健康情報を提供しています。

今後も元気に働くために、健康づくりに有効で健康管理に役立つ、興味深い情報提供を行ってまいります。



健康教室『生活習慣病予防と健康意識向上研修』

加齢とともに生じる健康課題の改善に向き合い、日頃よりセルフチェックを心がけるようになると、良好な健康状態を維持でき、常に高いパフォーマンスを発揮することができます。

当社では、毎年生活習慣病予防のために健康教室を開催しております。2018年のテーマは、「生活習慣病の予防と在職中及び退職後も健康保持・増進で健康的な生活を送れるための健康意識向上」について、内科の武田医師をお招きし、専門の立場からお話をいただきました。

今後も従業員のヘルスリテラシー（健康意識）を向上させるために、健康増進と生活習慣病の予防改善のために関心の高いテーマを選び取り組んでいきます。

(2018年11月13日、12月5日)



社内健康づくり『社内運動』への取り組み

当社では2015年11月より従業員の生活習慣病予防を目的として、運動習慣を身に付けてもらうため、社内運動を実施しています。2019年1月より運動習慣の定着化とリフレッシュにより業務の活性化を図るため、運動時間を昼食後に実施しています。外部の健康運動指導士の指導を受けながら、簡単・手軽にできるストレッチや、代謝アップの筋トレ等を行っています。参加者も意欲的に運動に取り組み、業務の活性化につながっています。今後も、工夫を重ねながら社内健康づくりに取り組んでいきます。



12. 社会との関わり

献血への協力

毎年、東根市の協力依頼を受け、日本赤十字社の血液事業（献血）に協力しています。構内で移動献血車による献血を年2回実施しており、山形県内では輸血用血液製剤の需要が増加しているなか、県内医療機関の一助となっています。2018年は延べ45名が献血に協力しました。

これからも、日頃の体調管理に気を配り、献血についての啓発等を推進し、私たちの血液を一人でも多くの方に役立てていただけるよう、継続して協力してまいります。



『果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会』への協力

「第17回果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」が陸上自衛隊神町駐屯地をメイン会場として開催されました。今大会は東根市市政施行60周年にあたる冠大会となったため、市から特別協賛企業向けにのぼり設置サービスの提供がありました。会場入口やゴール付近、さらにはハーフマラソンコースとなっている当社南側の道路フェンスにものぼりを設置して大会を盛り上げました。

また、大会には欠かせないボランティアとしても従業員30名が大会運営に協力し、早朝から氷水で冷やした6,500枚の「冷たいタオル」を用意して、当社正門前のリフレッシュポイントでハーフマラソンのランナーに提供し大変好評を得ました。（2018年6月）



アルミ缶リサイクル活動実績

昭和電工グループアルミ缶リサイクル活動に参加しています。従業員が家庭等で出た使用済みアルミ缶を持ち寄り、社内に設置した回収BOXに入れます。

2018年の活動実績は以下のとおりです。

- ・回収缶数：42,949缶
- ・回収重量：780kg
- ・収益金：58,422円

収益金は東根市社会福祉協議会に寄付しました。

また、2019年2月16日に開催された「東根市地域福祉推進大会」において、当社の長年に亘る寄付に対し、土田東根市長より感謝状が贈呈されました。



『English Camp in Higashine 2018』へのボランティア参加

東根市教育委員会主催の「English Camp in Higashine 2018」にボランティアとして参加しました。

「English Camp in Higashine 2018」は、東根市内の中学生の英語への興味関心と英会話コミュニケーション力を育むことを目的とし、2018年は市内の29名の中学生が参加しました。

本イベントでは、すべてのコミュニケーションを英語で行います。東根市のALT(外国語指導助手)やボランティアの日本語の判らない外国人役に対し、「東根市の観光名所を案内しよう～東根市バスツアー～」 「案内した名所を紹介し合おう」等の課題に挑戦し、英語で話すこと・聞くことのコミュニケーション力を高めていました。



ナイスプレー行動への称賛による褒める文化の醸成

現場オペレーターの普段の業務において、良い行動(ナイスプレー)を吸い上げる仕組みを考えました。

ナイスプレーが日々の業務に埋もれてしまわないように、ナイスプレー行動基準を定め、基準に該当するものがあればデイリーミーティングでノミネートし、ナイスプレーと判断されたものは現場の全体朝礼で紹介し、その行動を称賛します。

この活動については、昭和電工㈱全体でも認められ、ダイバーシティCEO表彰 特別賞を受賞することができました。



手話の促進によるろう者とのコミュニケーション向上 (事業所全体への展開)

ろう者メンバーとのコミュニケーション向上並びにモチベーション向上・業務効率化を図るため、職場でよく会話する内容の手話を練習する手話教育会の開催と動画撮影を行いました。

職場では手話を習得しようとする人が増え、手話教育会以外で日常会話の手話を教えてもらう姿も見られるようになってきました。現場全体のコミュニケーションが良くなり一体感が増えていると感じています。手話教育会では、単語の手話を学ぶだけでなく、実践的な(業務に必要とされる会話形式の)手話を全員と一緒に練習する事により、メンバーが楽しみながら習得しています。

また、ろう者への理解と手話の啓蒙活動として「指文字カード」を作成し、従業員(本社・基板工場・協力企業を含む全員)に配布しました(500枚作製)。

この活動については、昭和電工㈱全体でも認められ、ダイバーシティCEO表彰 特別賞を受賞することができました。



13. 従業員との関わり

『交通安全県民運動』への協力

春と秋に山形県下一斉に交通安全県民運動が展開されます。当社でも従業員向けに夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗用中の交通事故防止推進や、道路横断時・交差点における交通事故防止などの交通安全啓発活動として、交差点と正門で交通安全指導を行いました。

- ・春の交通安全県民運動（2018年4月 6日～4月15日）
- ・秋の交通安全県民運動（2018年9月21日～9月30日）



女性活躍推進の取り組み

女性社員の活性化を目的に、「交流会」を実施しました。

女性活躍推進活動の3年目の今回は、過去2年間で異なり、業務内容や勤務形態等が同じようなメンバー同士の班編成にし、「働きやすい職場環境とは」というテーマで意見交換を行いました。

本交流会では、人間関係・コミュニケーションが重要であるという意見が大半を占め、それらが良好であれば、働きやすい職場環境であることはもちろんのこと、従業員のやる気・モチベーションに繋がると感じました。

引き続き、従業員が十分な能力を発揮できるような職場環境づくりに取り組んでまいります。



応急手当講習『救命入門コース』の受講

今年も東根市消防本部の救急隊員を講師に応急手当講習（救命入門コース）を4回開催し72名が受講しました。

胸骨圧迫とAEDの使用法を中心とした救命処置を学び、実際に必要な場面で心肺蘇生とAEDの適切な使用ができるよう技術を習得しました。

受講者から大変好評で「継続して年に1度は受講したい」「難しいと思っていたAEDが使えるようになってとても良かった」「体験することで自信が付き行動がとりやすくなった」との感想がありました。今後も、継続的に開催する予定です。



『大運動会と工場見学会』を開催

大運動会(当社グラウンド)と工場見学会を実施しました。

今年も社員・協力企業及びそのご家族、また、昭和電工(株)市川会長をはじめ国内外の他拠点からも多くの方にお越しいただき、総勢210名がグラウンドに集結しました。

競技になると、みなさん熱くなっている様子でした。競技者が本気に取り組むからこそ笑える・見応えのあるシーンが続き参加者全員で大いに楽しむことができました。

工場見学会には43名(14家族)が参加しました。見学ルートには、クリーンルーム入室時に通過するエアシャワーの体験も組み込まれており、吹き出す風には子供達は大はしゃぎでした。

当日は天候に恵まれ、楽しく有意義な秋の一日を過ごすことができました。(2018年10月)



MEMO



昭和電工HD山形株式会社

2019年 CSRサイトレポート

発行年月:2019年8月

本レポートに関するお問い合わせ先

昭和電工HD山形株式会社 総務部 CSRグループ

〒999-3701 山形県東根市東根甲5400番地2

Tel:0237-43-6111 Fax:0237-43-6039